

令和6年
第377号

ふがく 光

社会福祉法人 富岳会
〒412-0033
静岡県御殿場市神山1925-1148
TEL (0550)87-0167
FAX (0550)87-6916

令和六年度の事業計画

社会福祉法人富岳会
理事長 山内 剛

昨年度はゴールデンウィーク終了後、コロナウイルスがレベル二からレベル五への引き下げにより、普通の生活に戻りつつありましたが、インフルエンザの流行も合わせ、富岳会では完全な終息には至らず、絶えずどこかの施設で小さなクラスターが発生していた一年でした。今年度も引き続き感染症予防には各施設つとめていたきたいと思います。

昨今の職員夏期研修では富岳会の事業計画として、五年以内の中期目標に施設のブランド化。十年の長期目標として法人内施設のゾーン化計画をあげさせていただきました。

ブランド化は、今実践している富岳会オリジナルの教育、療育をいかに外部発信し、多くの方々に知って戴くかにあります。

そのために必要なのがブランディングです。ブランディングにはインナーブランディングとアウトナーブランディングがあります。インナーブランディングは保育、療育、介護の環境を指します。明るく笑顔の絶えない雰囲気。職員の丁寧な対応。安全安心な環境。良く清掃された奇麗で清潔な建物などがあげられます。

アウトナーブランディングは保育、療育、介護のクオリティーの高さです。他の法人よりも質の高いサービス。富岳会のオリジナルティー溢れる教育や療育や介護を提供し、効果を上げていくかです。富岳会の保育園では日頃忙しく仕事に追われて子どもを習い事に通わすことのできな

い家庭のために、通常の保育に加えて、外部講師を招いて音楽、習字、英語、サッカー、ダンス。職員が研修を受けて和太鼓、体育、一輪車、絵画、造形と多くのカリキュラムが組まれ、子どもたちは自分の好きな物、得意な物を見つけ自信につながっています。

どんなに素晴らしいことをやっていてもそれを伝える努力をしなければ何も意味がありません。富岳会が持つ他の法人と決定的に違う付加価値、ブランドをどんどん発信していきましょう。

そして十四の施設の五つのゾーンにまとめる法人のゾーン化計画は五年前から始まり、御殿場神山ゾーンでは障害者生活介護施設、富岳の郷とエイブル富岳の合併。御殿場富士岡ゾーンでは日本でも先進的なインクルーシブ保育を導入した富岳保育園と児童発達支援センター富岳学園の総合児童施設チャムの完成。裾野中央ゾーンでは富岳台保育園とキッズ

センターあいとの統合と着々整備が進んでいます。

令和六年度に取り組む事業としては、特別養護老人ホーム、オレシヤトー富岳の施設整備に着手することとなります。現在静岡県の東部地区の低所得クラスの高齢者は七〇%であり、高齢者施設では国の推進する高額のユニット個室に空きがある一方で多床室が不足している状況があり、少しでも利用料金の低い多床室を希望する傾向が強いとかがうかがえます。

そこで今回の施設整備は災害指定地域に建つ特別養護老人ホーム、富岳一ノ瀬荘を廃止し、現在の入所五十床シヤトーステイ十二床のオレシヤトー富岳に吸収併合せ、個室ユニット四十床、多床室四十床、シヤトーステイ二十床で、御殿場市と裾野市両市をまたぐ形の運営を考えております。予定では今年度基本設計と入札。令和七年度建設。令和八年度オープンを目指します。建設予定地はここ御殿場神山ゾーン。今のオレシヤトー富岳の裏の空き地を予定しています。更にはJA富士伊豆よりお借りしている富士山マルシェの契約が六月で終了します。新しい大型倉庫をここ神山ゾーンに建設予定ですが現在認可等の問題で難航中です。場合によってはマルシェ

の大量の荷物を倉庫完成まで各施設に振り分け保管していただくことになるかも知れません。

そしてもう一つ。日本財団の補助で建つ富岳太鼓パレスですが、かねてから申請していましたが、張替え、音響、空調の改修工事の助成が決定しました。令和七年三月までに完了する事業ですので、皆様方にはご迷惑をお掛けすると思いますがご理解のほどよろしくお願いいたします。

進化論を唱えたチャールズ・ダーウィンの有名な言葉です。「最も強いものが生き残るのではない。最も賢いものが生き延びるのである。唯一生き残ることができるとは変化できないものである。」私たちは現状に甘んじることなく常にイノベーションを繰り返す、他法人の一步先に行くのではなく、「世の中の二歩先を行く運営を目指します。」
本年度もよろしくお願いいたします。

新年度を迎えて

富岳の園 施設長 山内剛

令和六年度、富岳の園では大きな改革がなされました。効率の良い運営のために長い間皆様方に親しまれて来ましたが、アーキブレッジ富岳を廃業し、新たに富岳の園と合併。富岳の園通所部として生まれ変わりました。

これにより、今まで利用者の方々も、職員も同じ場所で生活していながら、作業場所を富岳の園とアーキブレッジ富岳と別にしたたり、職員同士も感染症等でどちらかの施設で人手が足りない時も、施設が違うとの理由から、支援に入ることもできない状況でした。しかしアーキブレッジ富岳を統合したことにより、富岳の園入所部五十名、通所部三十五名。日中支援は生活介護三十五名、就労継続支援B型四十五名と流動的に行き来ができるようになりました。

この環境の変化は、富岳の園で行われている独立採算制のモアナベーカーリー、キッチンオハナ、アロハクリンサービズ、リコファーム、富岳製作所、富岳太鼓の事業の中から自分の力を発揮できる仕事を選べ、かつ職員も制約なく配置することができるようになりました。今年度はコロナ禍で低迷していた就労部門の巻き返しを図って、国が掲げる平均工賃の二万円倍を行く四万円を目指すとともに、生活介護のプログラムの充実を図ってゆく所存でおります。一年間よろしくお願いいたします。



新年度を迎えて

富岳の郷 施設長 早野均

令和六年度、富岳の郷の施設長を務めさせていただきました。今年度より施設長を拝命し、責任の重さを感じておりますが、職員とともに、先輩職員方が今まで積み重ねてきた歴史を守りながら業務を進めていきたいと思っております。ご利用者の皆様には、安全に、そして何より安心して生活をしていただけるよう努めてまいりますのでご家族の皆様、ご関係者の皆様には引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

さて、富岳の郷は、生活支援施設として百人のご利用者の皆様が年齢や性別、それぞれの個性に応じて四つのユニットで活動をされておりまして、ご利用者の皆様にとって富岳の郷は『生活の場』ということ

を念頭に置き、集団生活を通じて得ていただけると、また、個性に応じてお一人おひとりが充実した生活を送っていただけたようにサービス提供をさせていただきたいと思っております。

まず、集団生活の中で必要なこととして、『ルール』を理解していただけるように取り組まします。この『ルール』というのは、しばりついたり、教え込んだりするためのものではなく、安全で快適な環境を構成するために必要な『思いやり』と考えています。利用者の皆様のペースに合わせ、受け入れやすい目標を段階的に設定し、できた、守れたということを積み重ね、継続していききたいと思っております。

次に個人の生活の場としての施設の役割は、できる限りご本人の希望する創作的活動や生産活動の機会の提供、状況に応じた身体機能や生活能力の向上のために必要な援助を行っていききたいと思っております。得意分野を見つづけること、目標を決めること、可能性を引き出し伸ばすことができるような支援を心がけていきます。

そのためには職員の専門性、チームワークが必要不可欠です。明るい雰囲気のある施設になるよう職員と努力して参りたいと思っております。

一年間どうぞよろしくお願いいたします。

新年度を迎えて

富岳保育園 園長 森田亜美

やわらかな春の日差しと共に、令和六年度富岳保育園、園児一五名でスタートしました。

富岳保育園では、ますます進む、少子化や保育士不足を考慮、現在二丁の高い、地域子育て支援センターや放課後児童クラブ、病児保育、一時預かり保育などのさまざまな事業は継続しつつ、ここ数年の定員割れを踏まえ、来年度の定員低減を視野に入れ、ゆとりをもった保育運営を目指していきたいと考えています。

保育現場は「子育て支援、保護者支援」が大きな課題となっています。保護者の皆様からのニーズが多様化し、はたしてこれは正しい保護者支援なのかと、現場の保育士は頭を悩ませる日々です。しかし、この保護者のニーズが、少子化のこれからに生き残るポイントだと考えます。

すべての保護者の意見を取り入れ叶えるのではなく、利用するすべての保護者に富岳会児童施設を目指すことも像を理解してもらおうべく、「富岳保育園に入って子どもがこんなことができるようになった」「富岳保育園に入れてよかった」「富岳保育園に入りたいたい」そう思ってもらえる保育を目指し、子どもの成長が見られたときには、保護者の方と喜びを分かち合うことのできる支援を目指し、保護者と子どもの両方がいい状態になるような支援を大切にしていきたいです。

そして、富岳会の児童施設で行っている、オリジナルカリキュラムをもっと子育て世代や世の中に発信し、興味を持ってもらう働きかけを行い、時代に合った情報発信を考えていきたいと思っております。富岳会児童施設のオリジナルカリキュラムとは専門講師や保育士の指導のもと、人間がもっとも多くのことを吸収できる幼児期に多くのことを経験し、未知の領域にチャレンジすること、好きなこと得意なこと、そして自分の気付いていない長所を見つけて出し、それらを将来につなげる全国でもめずらしい教育カリキュラムです。和太鼓・一輪車・ダンス・体育・絵画造形・音楽・英語・習字。こんなにも多くの専門活動を行っている保育所は近隣の市町にはありません。富岳会の児童施設の強みを職員みんなで全力でアピールしていきます。

子どものための保護者支援と富岳会児童施設の外発信強化を

目標に、園児、職員、保護者の皆様にあつた指導計画、活動支援を、意見の出し合える環境の中でたくさん話し合い、皆で試行錯誤しながら、より良い保育をしていきたいと思ひます。一年間、よろしくお願ひいたします。

令和六年度のスタート

富岳南保育園 園長 橋本正美

今年はお花の開花が少し遅いようですが蕾が膨らみ、開花も近づいています。

子どもたちの嬉しそうに園庭を駆けまわる様子が微笑ましい中で令和六年度がスタートしました。

富岳南保育園のある裾野市でも全国的な傾向と同様人口が減少しています。少子化に伴う保育園の今後の運営について改めて考えていく必要があります。小学校の編成計画が始まり、幼稚園・保育園の統合でも園化も始まっていくようです。富岳会の保育園・こども園ではオリジナルのカリキュラムを取り入れています。自分が得意とすること、長所をみつけ、能動的に動けるようなお子様を育て将来につなげていけるようなカリキュラムを実践しております。卒園したから終わりということがないように関わりを大切にしています。ブログ、ホームページの充実をはかり多くの人に富岳南保育園を知っていただくためにPRの強化をはかりたいと思っております。

次に人と人とのつながりを大切にしていきたいと思います。職員と園児はもちろんのこと、保護者、地域の方、小中学校とのつながり、そのことによっていつまでも子どもを見守ることが出来ます。昨年度も卒業した小中学生が卒業したこと報告にきてくれて思い出話をして成長した姿を嬉しく思えました。いつまでもつながりがあり幸せな気分になりました。

次に人に対して思いやり、助け合う心を育てていきたいと思ひます。子どもだけではなく、職員も心を育て心豊かになり、より良いサービスを提供できるのではないのでしょうか。人の感情は三歳までに育つといわれています。子どもの心が育つとき、育つたと感じた瞬間はどのような時かと考えたとき、乳児期からの集団保育の需要が増えつつある今、目には見えにくいですが心の育ちを保障する大きな役割が私たち保育の中にある重大なことが求められ、豊かで感動できる保育があるという魅力の

ある仕事だと思ひます。私をはじめ、保育士にもそんな魅力を感じていただけるように努力していきます。この度七十六年ぶりに職員配置に係る最低基準の改正が実施されることで子どもの最善の利益の保障、質の高い保育を目指すことが重要となります。

最後に自然災害、安全対策の強化を行い、マニュアルなどの見直しや職員が理解できる研修をしていき安心・安全な施設を目指していきます。

富岳南保育園の立地条件、周りの環境、地域からもより一層大切にされる保育園を目指し、日々変化しながら成長していきたいと思っております。職員一同笑顔で頑張っていきます。一年間どうぞよろしくお願ひいたします。

新年度を迎えて

富岳キッズセンターあい 園長 山本雅代

幼保連携型認定こども園として二年目を迎える春。通勤の車中から見える桜に癒され、車を走らせる毎日です。

令和六年一月一日の能登半島地震速報が飛び込んできて、衝撃映像を目の当たりにし、自分たちのことに置き換えてみると大切なお子様をお預かりしている状況の中での帰園困難の可能性も含め、災害時におけるBCPの義務化、見直しを行うと共に、キッズセンターあいでは水害指定区域並びに地域避難場所にも指定されておりますので、地域の方々と協力体制も含め計画を立てていきたいと思ひます。

今年に入り保育現場における変化、課題が浮かびあがってきており、一つめは未婚・晩婚化の傾向に加え、新型コロナウイルス禍の影響を受け、少子化は政府想定より十二年早いペースで、厚生労働省が発表した二十三年度出生数は全国的に一段と進み、静岡県においても七・四%減で二万一七一人となっております。そのことから富岳会オリジナルカリキュラムと、他施設にはみられない物的環境を全面にアピールし、インナーブランディング部分、人的環境、自園カラーを打ち出して選んで頂けるようなこども園にしていきたいと考えております。

二つめとして「こども誰でも通園制度」に関しては、こども家庭庁が年度内にもモデル事業を開始し、令和八年度に本格導入する予定を発表しています。保護者の方々の求めている部分

など時流に合わせ、先読み、方向性を定め、変化を求められているのが保育の現状です。しかし、そこで働く職員たちの処遇改善の部分見直しも行い、保障・働きやすさなど一人ひとりに寄り添える環境と職員の個性を大切に認めながら働きやすい職場を目指していきたいと思ひます。

三つめは、保育所等における職員配置にかかる最低基準についてですが、一歳児及び三〜五歳児は改正が進められていることとなっております。(二歳児は不明示)

近年子どもの発達の個人差も大きく、個別に対応する必要性が増して「保育所保育指針」幼保連携型認定こども園、保育要領のねらいを達成することの難しさを感じております。

四・五歳児二五対一、三歳児十五対一、一歳児五対一の数字が現状の保育に見合っているかの改正の実施検討される中、私たち職員はこれらの社会情勢も敏感に受け取り、意識すること富岳会の「健・心・愛」に対し、基本に戻り福祉に携わる職員として、基本姿勢「見守る、待つ、寄り添う、そして受け入れる、耳を傾ける」を心掛け、この大切な開園二年目に向けて職員一人ひとりが「自問自答する時間を持つ」ことを習慣づけるようになるよう努めていきたいと思ひます。同時に、自分たちの目指している保育、教育を再認識することで日々の園生活を子どもと一緒に楽しんでみながら職員の一生懸命の姿を通して子どもたちが感じ取り、子どもたちの中心である遊びが豊かに展開できるような関わる力を育て、職員も教える保育から学びの保育教諭と自分自身も変化し、この気づきからの二年目試行錯誤期で自ら動く能動的職員を目指していきたいと思ひます。

一年目 失敗を恐れず、みんなで作ってみよう
二年目 気づきを生かし、工夫しながら協力してやってみよう
三年目 自園のカラーを全面にアピールしてやってみよう
地域の方々から選んで頂けるこども園を目指し、ホップ・ステップ・ジャンプ
一年間よろしくお願ひいたします。



新年度を迎えて

富岳学園 園長 杉山延江

正門から園舎までの通路には、ちやむあつぶタイムで子どもが植えたパンジーやチューリップが色とりどりに咲き誇り、春の息吹を感じます。

恵まれた環境の中で、それぞれの園の良いところを充実させると共に、富岳式インクルーシブ保育で、富岳保育園とのオリジナルタイム保育・サムタイム保育を経験し、地域の幼稚園・保育園との交流も活発にできています。

定型発達と同年齢の幼児の発達過程、人間関係、言葉、表現活動、運動、遊びなどを支援者が理解していくことも重要と考え、園児及び職員の交流をしていきたいと思えます。

富岳学園は、療育が必要になった時から利用して、療育の効果が上がった時点で、次のステップに移行し、年齢別でなく、子ども一人ひとりに今必要な支援プログラムを展開するために、療育目的別クラスでの療育を行い、児童発達支援センターオリジナルのプログラムを通して、自ら考え自ら行動する、能動的人間形成を目指しています。

子どもの育ちの評価の多くは、「できる」「できない」かで判断されがちですが、できないことはかりに目を向けるのではなく、「できたこと」を評価し、今以上に「自分でできること」が増えるような支援を進めていくことを目標にしたいと思えます。

また、「こどもに寄り添う療育」も目指していきたいと思えます。何に寄り添うのか？その子の発達、特性、個性はもちろんですが、その子の「気持ち」好きなこと、嫌いなこと、どうしたいのかなどの思い、願いに寄り添うことが大切ではないかと思えます。今まで以上に子どもの気持ちをよくみ取れる、寄り添う療育を進めていきたいと考えています。

今年度は児童福祉法が改正され、児童発達支援施設においても、子どもと家族への質の高い支援の確保・充実と地域全体の支援体制を強化することが示されています。保護者とともに、同じ目標を持ち、家庭と学園が一体となり、お子様を育てることの楽しさを体験しながら、多くの子どもたちが、この通過施設である富岳学園を、できるだけ早く巣立っていきけるように、行政、保育施設、学校等との連携もしっかりと行っていけるよう、素晴

らしい環境のなかで、子どもたちの幸せを第一に児童発達支援センターとして、運営していきたいと思えます。

新たな気持ちで

富岳裾野学園 園長 山本由紀子

令和六年四月より、児童発達支援センター富岳裾野学園の園長を拝命いたしました山本由紀子と申します。社会福祉法人富岳会に入社以来、障害者の就労支援、生活支援の施設で勤務をさせていただきましたが、今までは大きく環境が変わることになりました。心新たに職務に当たりたいと思えます。どうぞよろしくお願いたします。

さて、令和六年度障害福祉サービス等報酬改定では、児童福祉法の改正をふまえて子ども・家族への質の高い支援の確保・充実と地域全体の障害児支援体制の強化に向けて、児童発達支援センターが、地域における障害児支援の中核的役割を担うことが明確化され、質の高い発達支援の提供が求められています。

富岳裾野学園では、開設当初から法人の理念である「健・心・愛」に基づき、ひとり一人の個性や特性を理解し、発達段階に合わせた専門的な療育を行っておりますが、今後は今まで取り組んできた様々な事業を継続するとともに、さらに、充実させてまいりたいと思えます。

子どもたちの大切な時期を保護者の方々、行政、各関係機関と連携をとりながら、職員の質の向上を図り支援させていきたいと思っております。

そのためには、富岳裾野学園が子どもたちへの療育目的別クラスでの支援、療育の成果がでたら次のステップへ移行という目標を理解し、その目標に向かって共通の認識を持って子どもたちの療育に取り組んでいくことが大切になります。

そして、職員間の信頼関係を築き、お互いを思いやりながら、新しいことを少しずつ取り入れながら活動していきたいと思えます。

引き続き、保護者の皆様、そして地域から信頼され、選ばれる施設を目指してまいりたいと思えます。子どもたち、職員の笑顔あふれる明るい施設になるよう、努力していきたいと思えます。一年間よろしくお願いたします。

新年度を迎えて

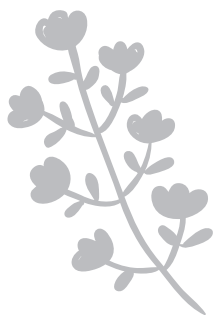
富岳一ノ瀬荘 施設長 飯塚早苗

新型コロナウイルス感染症が五類に変更されて、世間は徐々にコロナ前の日常を取り戻しつつありますが高齢者施設にとっては、まだ感染リスクが高まっていると感じます。感染症予防に引き続き留意してまいります。

さて、令和六年度介護保険法が改正されました。少子高齢化や世界情勢に左右される経済状況など踏まえて大きく四つの視点を基本に実施されます。

- ① 地域包括ケアシステムの推進
- ② 自立支援・重度化予防に向けた対応
- ③ 良質な介護サービスの効率的な提供に向けた働きやすい職場づくり
- ④ 制度の安定性・持続可能性の確保。

義務化、努力義務、新設減算も加わり、感染症や非常災害が発生しても必要な介護サービスが継続的に提供できる体制を構築するための施策が急務になります。利用者様が安心して利用できる環境づくりや、医療との連携の重要性が色濃く示されましたので働く環境を良くするため、職員の役割分担をはっきりさせて専門性を高めていくことが必要です。現状の見直しや今、目の前にある問題を見える化して事業所内で話し合うことが重要になります。私たちは利用者様の想い、職員の想いを大切にしたい。先、オレンジシャトー富岳との合併を見据えて、やさしく安全な介護サービスが提供できるように、種別での研修が職員のスキルアップに繋がるように参加してもらいたいと思えます。介護は多職種が互いを思いやる心を大事に対等な立場で上手に連携しながら、利用者様一人ひとりの情報を共有して支援介護に努めます。今年度もよろしくお願いたします。



新年度を迎えて

オレンジシャトー富岳 施設長 東海養一

今年度オレンジシャトー富岳の施設長を務めさせていただきまず東海養一です。よろしくお願ひします。

昨年オレンジシャトー富岳では、新型コロナウイルス感染症が施設内に大きく広がり、利用者様、家族、関係者の方々に大変ご心配ご迷惑を掛けました。二類から五類に変わったとは言え今年度も引き続き感染予防には気をつけて参りたいと思います。

富岳ダイヤモンドライフそのに八年勤務して老人福祉について感じたことは、多様なニーズを持っている利用者様への介護は決して一長一短ではないと言つてことです。

介護は、意図的・計画的に行うものであり、そこには理論的な思考に基づいて行い一つひとつの介護行為の背景には知識や技術はもちろんですが、利用者様個人のことを重視した客観的な根拠が介護には必要だと考えられます。

また、介護の現場を直接支える介護員は、サービスの提供者であり施設のサービスの質を示すものです。

まさに介護員の業務はサービスに直結するものであり、ひとり一人がしっかりと意識しなければなりません。

そのサービスを提供する上で職員間の連携の強化・情報の共有・目的意識の向上を業務の中で重視しながら利用者様に適切な環境を提供できるオレンジシャトー富岳を目指して参りたいと思います。

新年度を迎えて

富岳ダイヤモンドライフその 施設長 山内勇人
富岳エメラルドパレス

日ごとに温かくなり、標高の高い須山地域でも春の訪れを感じられるようになりました。法人本部からダイヤモンドへつづくパノラマロードが桜でいっぱいになる日が待ち遠しいです。ダイヤモンド、エメラルドのご利用者様もお花見を今か今かと楽しみにされています。本年度より富岳ダイヤモンドライフその・富岳エメラルドパレスの施設長を拝命いたしました山内

勇人と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、今年度ダイヤモンドではユニットケアの在り方を一から見直し、ダイヤモンドを利用する全てのご利用者様が安心・安全に過ごしていただける環境づくりを目指していきます。ユニットケアの運営は確かに大変です。しかし、メリットも多くあります。ユニットケアのデメリットばかりを見るのではなく、メリットを最大限生かした富岳式ユニットケアを作り上げ実践していきます。また、三年後には一ノ瀬荘とオレンジシャトーが合併しユニットケアと従来型の複合施設が開設され、ダイヤモンドで実践しているユニットケアをそのまま流用できることが求められます。そのためにもこの一年で富岳式ユニットケアを確立し、運用レベルまで引き上げる必要があるのです。

次にエメラルドです。エメラルドでは「もつと楽しく、もつと自然に」をテーマに選ばれる施設づくりを行い、ご利用者様やご家族様に入つてよかった、選んでよかったと思つていただける施設を目指します。そのためには職員のアイデアがとても重要です。楽しいアイデアやひらめきはご利用者様の日常を華やかにします。職員がアイデアを出しやすくまた表現できる環境があれば、もつと魅力的な施設になるはず。

最後に、「ご利用者様の人生最後の思い出はあなたです。」老人施設はご利用者様の最後の記憶となるとも大切な場所です。長い人生の最後を素晴らしいものとする一助となるよう、心を込めてケアしていきましょう。一年間よろしくお願ひいたします。

令和六年度に向けて

法人事務局 事務局長 山内香世子
マハ口 代表

この所の気候は温暖化と言われているものの、今年の春は例年に比べてさくらの開花の遅い、比較的寒い春の訪れでした。石川県の未曾有の大地震や世界中の異常気象。日本では、長いコロナウイルス感染症の冬眠期間からやっと抜け出したと思つたら、今度はコロナに加え様々なウイルスの脅威にさらされることとなり、いったいこの地球はどうなつてしまつたので

しょうか。

当法人の昨年度を振り返ると、各施設では感染症に伴う施設閉鎖や事業の予定・内容の変更が起り、その時々臨機応変に対応する能力を身に着けたような気がいたします。ただ、これからも何かしらの対策は必要になるため、臨機応変ではなくその時々に応じた行動マニュアルの作成が必要となることと思われまふ。

さて、今年度の法人の事業は、倉庫の建設と富岳太鼓パレスの修繕に加え、オレンジシャトー富岳の建設の準備が始まります。物価高騰の折、建設にかかる経費も十年前に比べ約二倍になり、より多くの資金が必要となります。それに引き換え社会福祉法人の経営状況は全国的に下降気味で工夫をしながら運営をしていかなければならない事態は当法人も同じです。この状況を乗り切るために、法人全体で一致団結し、知恵を絞る必要があります。そのため、まずは種別ごとの事業内容や方法の統一、だれもが働きやすい職場作りと人材の育成など、各施設が情報を共有し、タイムリーに行動に移せるようにしなければなりません。そのために年度末にはPCの入れ替えをしたのを機に事務局からリモートで各施設に指示ができるようなシステムを導入しました。また、富岳太鼓パレスでも動画配信ができるようになります。令和六年度は経費の節約はもろろんのこと、時間などいろいろな形の節約を考え、効率よく仕事を進められるよう考えていきます。

収益事業マハ口は、店舗での売り上げが上昇しておりますが、仕入れの価格も上昇しておりますので、利益率はそれほどありません。ただ、毎日多くのお客様に来店していただけるので、販売方法など工夫して売上アップを目指したいと思います。

同じく収益事業の富岳太鼓は、コロナ以降の昨年からイベント収益も上向きになり、太鼓教室の人数も増えてきておりますので、二つの収益事業から法人繰入がしっかりとできるよう努力していきたくと思ひます。

令和六年度はいろいろな事業を同時に進行しなければならぬ目まぐるしい一年になると思われまふ。皆様にご協力いただきながら法人の運営に尽力していきたくと思ひます。一年間よろしくお願ひいたします。